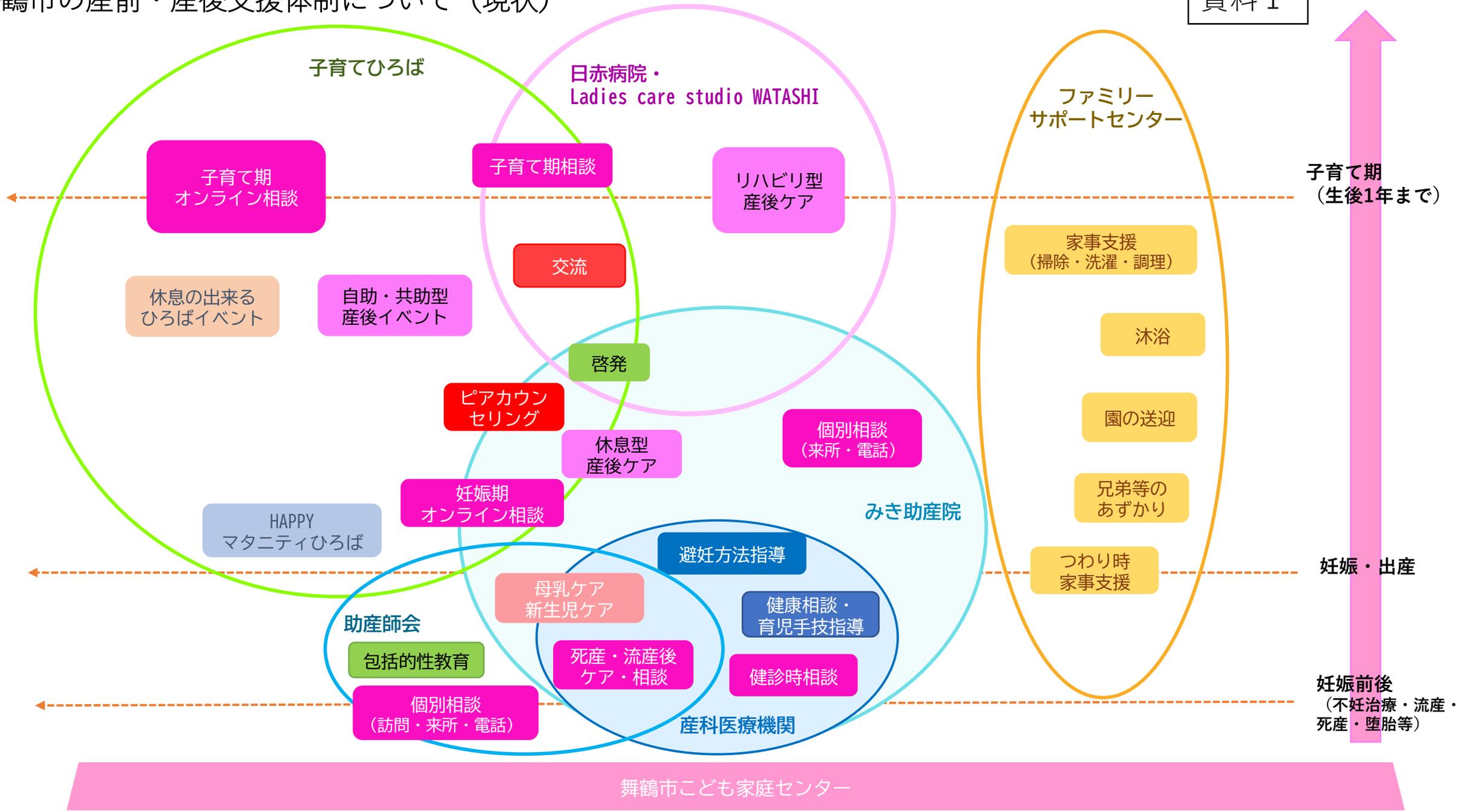


舞鶴市の産前・産後支援体制について（現状）

資料 1



舞鶴市の産前・産後支援体制と課題について

資料 2

思春期	妊娠前	妊娠中	出産	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	1歳～
京都府助産師会（啓発・命の教育・個別相談・死産・流産後ケアなど）															
産科医療機関（健診時相談・死産・流産・中絶後・不妊治療ケア・避妊方法指導・母乳ケア・新生児ケア）															
助産院（健診時相談・死産・流産・中絶後・不妊治療ケア・避妊方法指導・母乳ケア・新生児ケア・個別相談・オンライン相談・休息型産後ケア）															
ファミリーサポートセンター（家事支援・沐浴介助・園の送迎・兄弟等のあずかりなど）															
子育てひろば（HAPPYマタニティひろば・交流・ピアカウンセリング・オンライン相談・休息型産後ケア・自助・共助型産後イベントなど）															
地域サービス（リハビリ型産後ケア・交流・個別相談など）															
舞鶴市子ども家庭センター（命の教育・母子健康手帳発行・個別相談・面談・新生児訪問・家庭訪問・予防接種・乳幼児健診など）															

①周知・啓発

- 健康への意識が低い
- 情報過多で取捨選択が難しい
- HAPPYマタニティひろばの参加者が少ない
- 必要なサービスに対象が繋がっていない

②妊婦本人・家族

- 精神疾患既往妊婦の増加
- 不安が強い妊婦の増加
- エジンバラの数値が高い人が増加
- 電話や面談が苦手など、対面のコミュニケーションが苦手が多い
- 自分自身にお金と時間を費やす事が出来ない人が多い
- 家族の協力が得られない。夫の育児力、意識の低さ

③サービス

- サービス内容とニーズの差（留守電・夜のサポート・雪かき・発熱時のあずかりなど）
- 精神的フォロー体制の不足（妊娠期からの密な関わりが出来ない）
- グリーフケア（流産・死産）の支援体制の不足
- 産後ケアの受け皿が少ない（希望した時に受けられない・家庭保育の児がいる場合、運転が出来ない場合は利用しにくい）
- 医療施設と助産院、地域とつながる仕組み

④マンパワー・運営費

- 母乳外来の助産師の体制不足にて乳房ケアが受けられない
- 母親学級・両親学級が出来ていない
- 担い手が少ない
- 運営費の不足

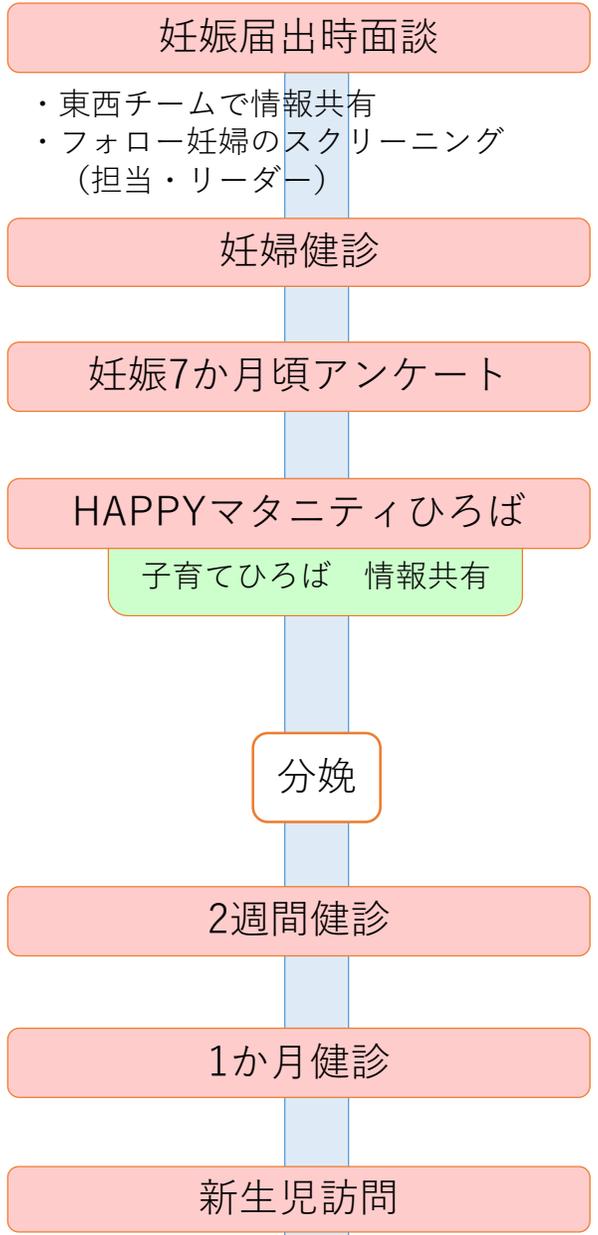
舞鶴市の取り組みの現状

要フォロー妊婦

- ・サポート不足
- ・不安が強い
- ・相談希望 など

助産師

- ・電話連絡・面談



妊娠届出時面談

- ・東西チームで情報共有
- ・フォロー妊婦のスクリーニング (担当・リーダー)

妊婦健診

妊娠7か月頃アンケート

HAPPYマタニティひろば

子育てひろば 情報共有

分娩

2週間健診

1か月健診

新生児訪問

ハイリスク妊婦

- ・サポート不足
- ・不安が強い
- ・若年・高齢
- ・精神疾患・知的障害など

- ・東西チームで支援方針検討
- ・助産師とのカンファレンスで担当助産師決定

- ## 助産師・保健師
- ・電話・面談
 - ・妊婦、家族への相談対応
 - ・サービス・制度案内・利用調整

産科医療機関との連携・カンファレンス (2月に1回程度)

- ## 保健師・助産師
- ・電話・面談
 - ・産婦、家族への相談対応
 - ・ファミサポ・産後ケア利用調整
 - ・精神科受診調整・同行
 - ・手続きのサポート

特定妊婦

- ・要対協管理家庭
- ・精神疾患・知的障害、若年、未婚+サポート不足
- ・被虐待歴 など

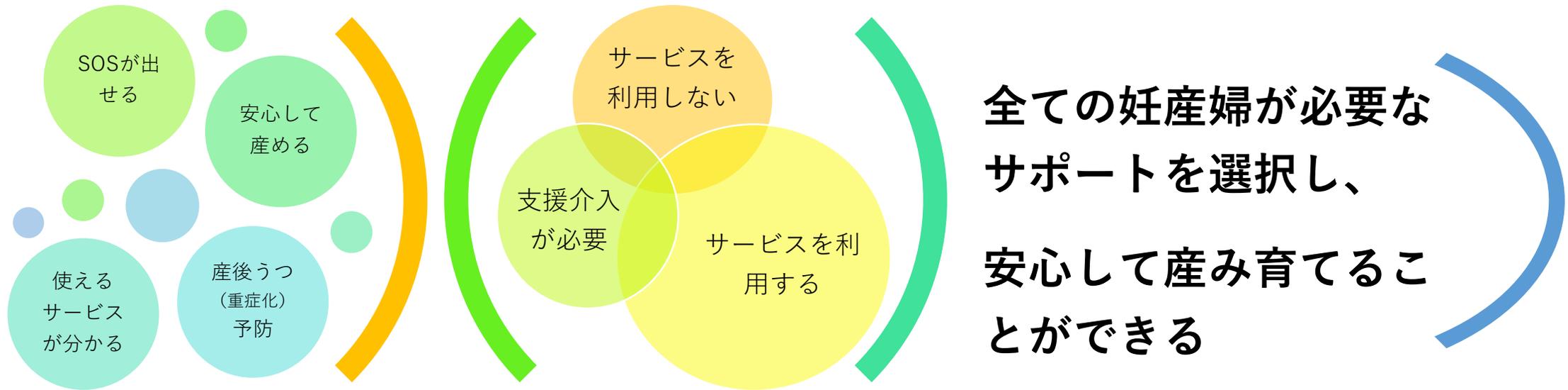
- ・東西チームで支援方針検討
- ・合同ケース会議で特定妊婦決定・支援計画作成・支援方針の検討・サポートプラン作成

- ## 保健師・助産師
- ・電話・面談
 - ・妊婦、家族への相談対応
 - ・サービス・制度案内・利用調整

- ・産科医療機関と随時 (産前・産後) ケース会議 (支援方針・役割分担等)

- ## 保健師・家庭相談員
- ・電話・面談
 - ・産婦、家族への相談対応
 - ・ファミサポ・産後ケア利用調整
 - ・精神科受診調整・同行
 - ・手続きのサポート

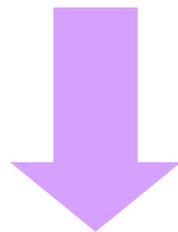
産前・産後支援体制について（課としての提案）



キーワード



色々な選択肢を提供



そのために・・・

- ① たくさんのサービスから自分で選択し、いつでも利用が出来る体制の整備
例) 産後の支援メニューを増やすなど
- ② 支援が必要な方への支援体制の充実 例) 特定妊婦の産褥入院、グリーンケアなど
- ③ 支援者の連携体制の確立 例) 関係する機関が集まる場を設定など

【ビジョン】全ての妊産婦とその家族が必要なサポートを選択し、しあわせを感じながら安心して産み育てることができるまいつる



- ・ バースプランをもとに妊娠10か月に入ったら全員個人面談⇒必要者は継続面談、他機関連携
- ・ 周知：産後の生活のイメージがつく、育休取得のタイミング、産後のサービス
- ・ 1か月健診後もママたちが集える場（お茶会・雑談会・子育てひろば地域へのつなぎ・閉塞感の解消・社会やママ友つながり）
- ・ 産後の緊張解放エクササイズ
- ・ 産後ケア（育児に自信がない・育児技術の習得目的）
- ・ 病棟と外来の一元化
- ・ 妊娠期の関わり（サポート体制の確認・他機関連携）
- ・ 医師・助産師不足⇒妊婦や産後子どもが他院に転院となり、母子が離れると母の精神面やその後の育児に影響

- ・ エジンバラ高値・産後うつを予防を強化⇒精神疾患の既往がない人でも外来でキャッチできるしくみ（アンケート調査）
- ・ 精神科を有するので、妊娠前からみていく
- ・ サービスを周知しても、利用するまでの敷居が高い⇒入院中の妊産婦同士がつながる場づくり、サービスの詳細を妊産婦及び家族にも伝える
- ・ 職員が、他医療機関や地域とつながり、地域へ還元する機会（仕事として）

- ・ 妊娠期から切れ目ない産後支援（妊娠7か月アンケート～4か月までは産後ケア～5か月からマルシェなど）
- ・ 支援機関間でチームを組んで、複数のサービスを医療機関の妊産婦に周知に行く・スタッフの顔を知ってもらう・人と人をつなげる
- ・ 子育て支援にかかる支援者同士のネットワークづくり（民間+医療機関、職種や立場の垣根を越えて）
- ・ 出産子育て応援給付金を一部クーポン化または市独自にクーポン発行

- ・ 妊娠中に1回でも関わりをもつ（37週になったら来院）
- ・ 妊娠中のおっぱいの準備と産後すぐのおっぱいの手当てで元気なおっぱいライフを
- ・ 妊娠7か月面談で産後の生活を一緒に考える
- ・ サービスをあえて有料にし、自分を大事にする意識を醸成
- ・ 産後は女性の一生の健康につながることを啓発

- ・ 地域と医療機関を行ったり来たりできる
- ・ 子どものサポート・送迎⇒親子を送迎できるように（例：助産院に母子で行ける）
- ・ Lineの活用

- ・ 産後リハビリで体を整える方法とところを前向きにする方法を伝え、しあわせを感じながら子育てできる人を増やしたい
- ・ 産後リハビリを経済的負担なく、誰でも利用できるかたちに
- ・ 母全員に関わりたいため⇒1か月健診を活用して母のからだのメンテナンス
- ・ HAPPYマタニティひろばで、妊娠中から産後の体の変化（尿漏れ・骨盤の痛み）に気づくことができる関わり
- ・ 市内医療機関のセラピストとの連携・育成・派遣
- ・ 結婚前の方に、産前産後のサービスが整い、安心して子育てできることを啓発が必要

- ・ HAPPYマタニティひろばに全員参加
- ・ 子育てひろばは
妊娠期から子育て期の親子のキャッチアップの場
しきいは遊び場のように低く、利用すると不安を吐露でき、フォローや必要なサービスにつなげる、ハイリスク対応もできる場
地域の中で仲間や居場所をみつけられる場
- ・ 日常の暮らしを見守り、医療機関やヘルスとも連携

- ①支援者が連携できる体制・仕組み作り
- ②サービス拡充及び計画立案
- ③予算の確保

